

日本天文学会早川幸男基金渡航報告書

2008年6月10日採択

申請者氏名	加藤 大輔 (会員番号 3947)
連絡先住所	〒 113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学理学部 1 号館 1122 室
所属機関	東京大学
職あるいは学年	特任研究員
任期 (再任昇格条件)	3 年 (再任不可)
渡航目的	研究集会でのポスター発表
講演・観測・研究題目	The IRSF Magellanic Clouds Point Source Catalogue
渡航先 (期間)	イギリス (2008 年 7 月 27 日 ~ 8 月 1 日)

私は IAU シンポジウム 256、「The Magellanic System: Stars, Gas, and Galaxies」において、発表をおこないました。この会議は IAU 研究会としては 1998 年以来 10 年ぶりの「マゼラン雲」研究会です。本研究会では 5 日間にわたり、マゼラン雲に関する様々な分野の研究成果が報告されました。

私はこの研究会において、「The IRSF Magellanic Clouds Point Source Catalogue」というタイトルでポスター発表をおこないました。このポスターは私が中心となって作成した「IRSF マゼラン雲近赤外線点源カタログ」を紹介するものです。このカタログは最も高い感度と角度分解能でマゼランの主要部分をカバーする近赤外線カタログであり、マゼラン雲の星の形成と進化の研究に極めて有用です。世界中の主だったマゼラン雲の研究者が集結するこの研究会において、このカタログを多くの研究者に周知させ、広く活用してもらうことを目指すのが本研究会参加の主目的でした。

結果から言うと、この狙いは十分に達成されたと考えています。ポスター発表の時間には、様々な分野の研究者の方からカタログに関する多くの質問をいただきました。そして、説明をした多くの方からカタログにぜひアクセスしてみたいと言っていただくことができました。また、私は自分のポスターの足元に、あらかじめ多めに準備しておいた A4 サイズのミニポスターとカタログ論文を置いておいたのですが、これらは 3 日目までに全て売り切れてしまいました。このように、多くの研究者にカタログを周知するという狙いは十分に達成できました。今後、様々な分野でこのカタログが広く利用されると期待しています。

また私は「ポスターセッション」において、自分のポスターを口頭で紹介する機会を得ました。この機会はこの研究会で発表された全 77 枚のポスターのうち、主催者側が気に入った 11 枚のポスターだけに与えられたものです。このことは私のカタログが主催者側にも認められたことを示しており、とても嬉しいことでした。

ところで、研究会全体の感想を述べますと、まずこの研究会で発表された研究の分野が非常に多岐にわたっていることが印象的でした。星形成・星の進化・銀河相互作用・物質

進化・高エネルギー現象など、これほど多くの分野の研究がおこなわれている系外銀河はマゼラン雲ぐらいでしょう。また研究会では、様々な波長域におけるすでに実行されたマゼラン雲サーベイの結果と、現在計画されている大規模サーベイが紹介されました。その中でも特に、Spitzer 宇宙望遠鏡によるマゼラン雲サーベイは多くの発表で言及されており、その関心の高さが印象的でした。このように、マゼラン雲の研究が順調に進んでいることを感じると同時に、マゼラン雲が極めてユニークで興味深い天体であることを再認識させられました。

なお、この研究会のおこなわれたイギリスの Keele 大学は、マンチェスターから南へ車で1時間ほどの所にあります。豊かな緑と歴史を感じさせる建物が印象的な、非常に過ごしやすい場所でした。また、一般の方が気軽に大学内の施設（パブまである！）を利用するなど、大学と地域がごく自然にふれあいながらこの大学の素晴らしい雰囲気を作り出していると感じました。

今回の研究会への参加は、自分のカタログを広く宣伝できた点、マゼラン雲に関する最新の研究動向を知ることができた点で、たいへん有意義でした。今後はこの経験を生かし、さらに研究を進めていきたいと思えます。最後になりましたが、今回いただいた早川基金よりの援助は、私がこの研究会に参加するにあたって大きな助けとなりました。早川基金の運営に携わる皆様、そして選考委員の方々に厚く御礼申し上げます。